



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



はりっしも

Harisshimo vol.10 2019(令和元年). 7

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

湧人小
きとさ
水自な
と然町
川をに
がつ
あな
るぐ

Message

針江・霜降地域は国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。

白の池橋 明光橋

川と橋

針江区長 清水 裕之

■生活を守る重要な施設に川と橋があります。上流部の霜降地区から流下する針江大川と小池川が流れ、東出地区と針江の広大な田圃地帯往来する「白の池橋」があり、日吉神社前には東出地区と西出地区を往来する橋があります。

針江大川には、「白の池橋」、「明光橋」の橋名が表記され、現在の白の池橋はボックスカルバート形式ですが、以前の橋は、川の中に橋脚があり片側はコンクリート床板橋で、片側は木板橋で背の高い荷を乗せた船が橋を往来する際には、木板を外して通過したように記憶しています。

小池川に架かる橋にも「御手洗橋」の橋銘板が取付けられ、現在の二宮会館や深溝ゲートボール場付近は、御手洗と名付けられ湧水が豊富で柳の木が生い茂り多くの船がとめられ、多数のシジミの殻や葦の丸立てがあり、現在とは異なり子ども達が探検できる自然環境の豊かな場所がありました。

新しい橋銘板と共に昔の橋名が取付けられていることは、橋の名称の由来があるはず。古き時代の暮らしと生活の知恵を垣間見ることも重要であると思います。

御手洗橋

夏はなんといっても
アユの遡上は見事なもの
追い網で父と獲ったのが懐かしい

田中義孝→裏面につづく

たまにはゆっくり 川をみてみませんか!!

霜降区長 青木 博

■令和元年、霜降区の区長になった時に、手伝ってくれる各役員に霜降区のテーマを決めようと思い、短い言葉で霜降区を表現する様な案を出してもらった。その時に複数の若い役員から思いもしない言葉が提出されてきた。この言葉の一部を紹介すると「水を守り守られ」「水とともに繋がる人々」「透き通りホット一息」「笑顔と水の湧き出る里」「清流、清環」などの言葉である。これには関心を飛び越え完全に羨ましい感情になってしまった。なんでこんな感覚で水をみれるんやろ、と。

私ごとではあるが、最近孫が来る度に大川に蟹、魚を見に行く機会がふえた。川岸にゆっくり座っていると、色んな箇所から水がわき出ているのに気づく。そして東に行くに従い湧き水で大川の水量が増し川の水も透き通って夏ならめっちゃ冷たくなる。こんな環境で育ったり、子供を育てたりするとあの様な感覚になるのもわかる気もする。

日頃中々時間無いと思いますが、一度ゆっくり川辺に行き、時間を忘れ、湧き出る水をジッと見るのもいいもんです。「こんな工環境を次の世代に」との気持ちなるのではと思います。



ウォッチング お知らせ

針江・霜降の水辺あかり

8月12日～15日 夕刻から



■今年も針江区・霜降区の夏まつりにあわせて、霜降会議所前周辺から針江日吉神社前の大川に、「水辺あかり」を灯します。昨年は、両区の小学生に思い思いの絵や水へのメッセージを描いてもらった「流し灯ろう」合わせて30基を川中に、「竹灯ろう」約60基を水辺に配置し、ロウソクのあかりを灯しました。

水辺にゆらゆらと揺れるロウソクのあかり…、暫し幻想的な景観が映し出され、多くの方に夏のひとときを楽しんでいただくことができました。お盆にお迎えしたお精霊さん(おしよらいさん)にも「針江・霜降の水辺あかり」を観ていただけたかもわかりません。

地域のこころをつなぐ「水辺あかり」。今年も夏まつりの行き帰りに、ちょっと大川沿いをそぞろ歩きしてみてください。

*協力：近江手造り和ろうそく 大與

